



## 2018年度第1四半期 決算説明資料

2018年8月3日  
三菱重工業株式会社

CFOの小口です。2018年度第1四半期決算の概要について説明します。

<b>I. 2018年度第1四半期決算実績</b>		<b>II. 2018年度業績見通し</b>	
・連結経営成績サマリー	3	・業績見通しサマリー	12
・定常収益	4	・定常収益	13
・セグメント別内訳	5	・セグメント別内訳	14
・連結財政状態	6		
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	7	<b>III. 補足資料</b>	15-20
<b>セグメント情報</b>			
・受注高・受注残高	8		
・売上収益	9		
・事業利益	10		

当社グループは、2018年度より国際会計基準(IFRS)を適用しています。  
このため、2017年度第1四半期および2017年度の財務数値についても、  
IFRSに準拠して表示しています。

ご案内のとおり、当年度より国際会計基準(IFRS)を適用していますので、比較可能性の観点から、前年同期や前年度の実績についてもIFRSに基づいた数値を記載しています。これらは以前に公表した日本会計基準に基づく数値とは異なることをご了承ください。

## I . 2018年度第1四半期決算実績

## 第1四半期決算実績 連結経営成績サマリー



(単位: 億円)

	2017年度1Q (利益率)	2018年度1Q (利益率)	増減 (増減率)
受注高	7,019	7,071	+52 (+0.7%)
売上収益	9,032	9,061	+28 (+0.3%)
事業利益	(0.7%) 64	(3.5%) 314	+249 (+384.6%)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	△30	(1.7%) 150	+181 -
EBITDA	(5.1%) 458	(7.0%) 636	+177 (+38.7%)
フリーCF	△765	△968	△202 -

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、前年同期より若干増加し、7,071億円となりました。

売上収益も、前年同期より若干増加し、9,061億円となりました。

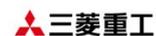
事業利益は、前年同期より249億円増加し、314億円となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益は前年同期より181億円増加し、150億円となりました。

EBITDAは前年同期より177億円増加し、636億円となりました。

フリーキャッシュフローは前年同期より202億円減少し△968億円となりました。これは特殊な事情によるもので、状況としてはほぼ前年同期並みとご理解ください。

## 第1四半期決算実績 定常収益



(単位: 億円)

2018年度1Q	定常収益 (利益率)	MRJ投資	合計 (利益率)
受注高	7,071	-	7,071
売上収益	9,061	-	9,061
事業利益	(6.0%) 540	△225	(3.5%) 314
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	(4.2%) 377	△227	(1.7%) 150
EBITDA	(9.5%) 862	△225	(7.0%) 636
フリーCF	△688	△280	△968

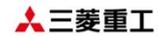
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

今回から新たに、開発投資の段階にあるMRJ事業を区分し、その他を当社の「定常収益」として提示しています。

この見方において、事業利益は540億円、当期利益は377億円、EBITDAは862億円となり、EBITDAマージンは9.5%となります。当社は過去数年にわたり、キャッシュフロー経営や戦略的事業評価制度に基づくポートフォリオの適正化に努めてきましたが、その成果が徐々に現れてきているものと理解しています。

## 第1四半期決算実績 連結経営成績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	'17年度 1Q	'18年度 1Q	増減	'17年度 1Q	'18年度 1Q	増減	'17年度 1Q	'18年度 1Q	増減
パワー	2,268	1,944	△ 324	2,951	3,166	+215	△ 17	251	+269
インダストリー& 社会基盤	3,846	4,340	+493	4,379	4,452	+72	120	148	+28
航空・防衛・宇宙	901	851	△ 50	1,706	1,506	△ 200	△ 68	△ 121	△ 52
その他	319	186	△ 133	316	178	△ 138	20	27	+7
消去または共通	△ 317	△ 251	+66	△ 322	△ 243	+79	10	7	△ 2
合計	7,019	7,071	+52	9,032	9,061	+28	64	314	+249

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

5

セグメント別の状況について説明します。

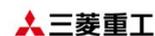
受注高について、パワーセグメントは前年同期より324億円減少し、1,944億円となりました。大型ガスタービンにおいて、受注内定案件はあるものの、1Qに受注に至ったものがなかったことなどが影響しています。一方、インダストリー&社会基盤セグメントでは、受注が低迷していた製鉄機械が増加に転じたこと、また、ターボチャージャ、物流機器(フォークリフト)、冷熱などの量産品が引き続き堅調に推移しており、前年同期より493億円増加しています。航空・防衛・宇宙セグメントでは、ボーイング向けのTier1事業において777が計画どおり減少しており、結果として受注高も減少しています。パワー、航空・防衛・宇宙の両セグメントにおける減少を、インダストリー&社会基盤の増加でカバーし、全体としては前年同期より若干増加しています。

売上収益について、パワーセグメントは前年同期比215億円増加し、3,166億円となりました。これは、前年度上半期に低調だった原子力の売上が回復したことなどによるものです。インダストリー&社会基盤セグメントは、ほぼ前年同期並みの4,452億円となりました。一方、航空・防衛・宇宙セグメントは、主に民間航空機Tier1事業において売上が減少したほか、防衛関連でも若干の減少があり、前年同期比200億円減少の1,506億円となりました。全体としては、航空・防衛・宇宙セグメントの減少をパワーセグメントの増加でカバーし、前年同期比で若干増加しています。

事業利益について、パワーセグメントは昨年度低調だった原子力が回復し、他の事業も堅調に

推移していることから、前年同期比で269億円増加し、251億円となりました。インダストリー&社会基盤セグメントも全般に堅調に推移しており、前年同期比28億円増加の148億円となりました。一方、航空・防衛・宇宙セグメントでは、民間航空機Tier1事業において、特に777の売上減少による影響があり、前年同期比52億円減少の△121億円となりました。全体では、パワー、インダストリー&社会基盤の両セグメントの好調を受け、前年同期比249億円増加の314億円となりました。

## 第1四半期決算実績 連結財政状態



(単位:億円)

	'17年度末	'18年度1Q末	対前年度末 増減	
売上債権(営業債権、契約資産)	15,046	14,316	△729	
棚卸資産	7,485	7,940	+454	
その他流動資産	※ 9,877	※ 10,207	+330	※ 南アフリカプロジェクトに係る資産を含む {'17年度末 : 4,459億円 '18年度1Q末 : 5,067億円}
固定資産	9,977	9,923	△54	
投資等	10,100	10,299	+198	
資産合計	52,487	52,686	+199	
営業債務	8,011	7,656	△354	
契約負債	9,146	9,064	△82	
その他	10,258	9,724	△533	借入金 +31 コマーシャルペーパー +980
有利子負債	8,131	9,142	+1,011	
資本	16,938	17,097	+159	配当 △201 四半期利益 +150
(うち親会社の所有者に帰属する持分)	(13,955)	(14,087)	(+132)	その他の包括利益 +167 他 (その他有価証券評価差額金等)
負債・資本合計	52,487	52,686	+199	

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

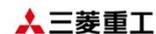
6

バランスシートの状況について説明します。

資産は、前年度末から199億円増加し、5兆2,686億円となりました。南アフリカプロジェクト関連資産が増加している一方、売上債権等は順調に減少しています。

バランスシートの効率化の観点においては、資産側の売上債権および棚卸資産の合計を、負債・資本側の営業債務および契約負債の合計でカバーできるかという点を常々重視しています。前年度末と比較し、当第1四半期末においてはこのバランスが若干崩れていますが、この資料には記載していない前年度第1四半期末と比較すると、一定の改善がみられます。このことは有利子負債の状況についても同様で、前年度末と比較すると1,011億円増加していますが、前年度第1四半期末(10,426億円)との比較では、逆に1,000億円以上減少しています。これまで推進してきたバランスシートの改善は引き続き順調に進捗しているものと評価しています。

## 第1四半期決算実績 主要財務指標／キャッシュ・フロー



### 主要財務指標

	‘17年度末	‘18年度 1Q末	対前年度末 増減	‘18年度 見通し
自己資本比率	26.6%	26.7%	+0.1pt	-
有利子負債残高 (単位:億円)	8,131	9,142	+1,011	7,700
D/Eレシオ	0.48	0.53	+0.05	-

### キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	‘17年度 1Q	‘18年度 1Q	増減	‘18年度 見通し
営業CF	△ 169	△ 555	△ 386	-
投資CF	△ 596	△ 412	+183	-
フリーCF	△ 765	△ 968	△ 202	500

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

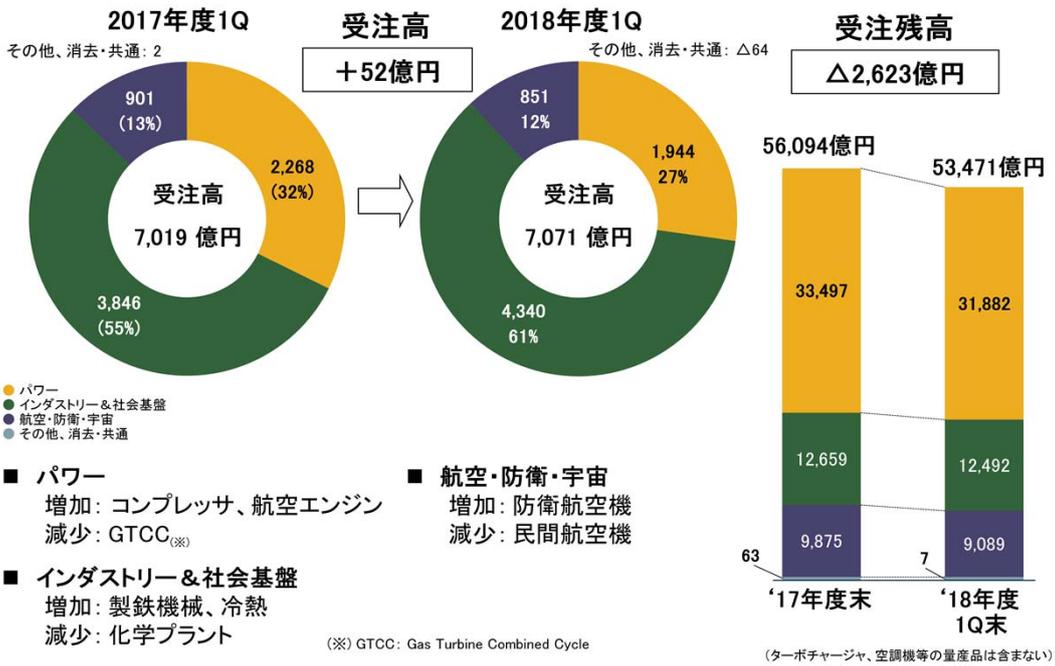
7

主要財務指標とキャッシュフローについて説明します。

自己資本比率は26.7%、有利子負債残高は9,142億円、D/Eレシオは0.53となりました。自己資本比率は前年度決算発表時の33%から大きく低下していますが、これは、IFRS適用にともないMRJ関連資産を圧縮したことにより、資本が減少したことを反映したものです。

キャッシュフローについては前年同期より悪化していますが、特殊な要因を含むものであり、全体としては計画どおりに進捗しています。

第1四半期決算実績 セグメント別 <受注高・受注残高>



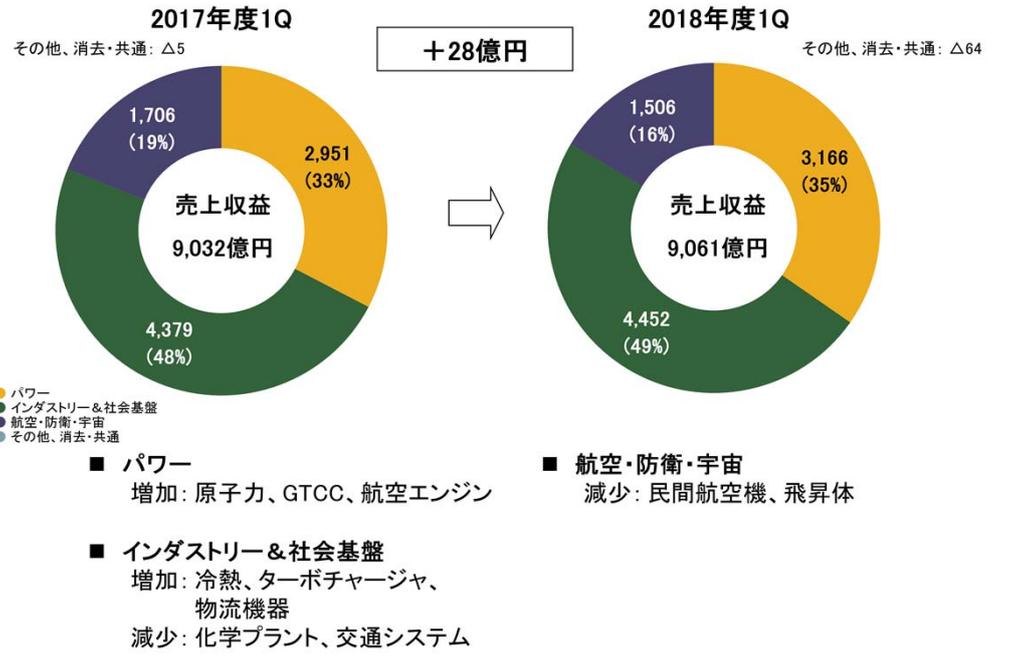
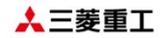
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

セグメント別の情報については、先ほど5ページでも説明しましたので、詳細は省略します。

受注残高については、当第1四半期の受注高7,071億円に対し、売上収益が9,061億円でしたので、その差分が2,000億円強減少しています。

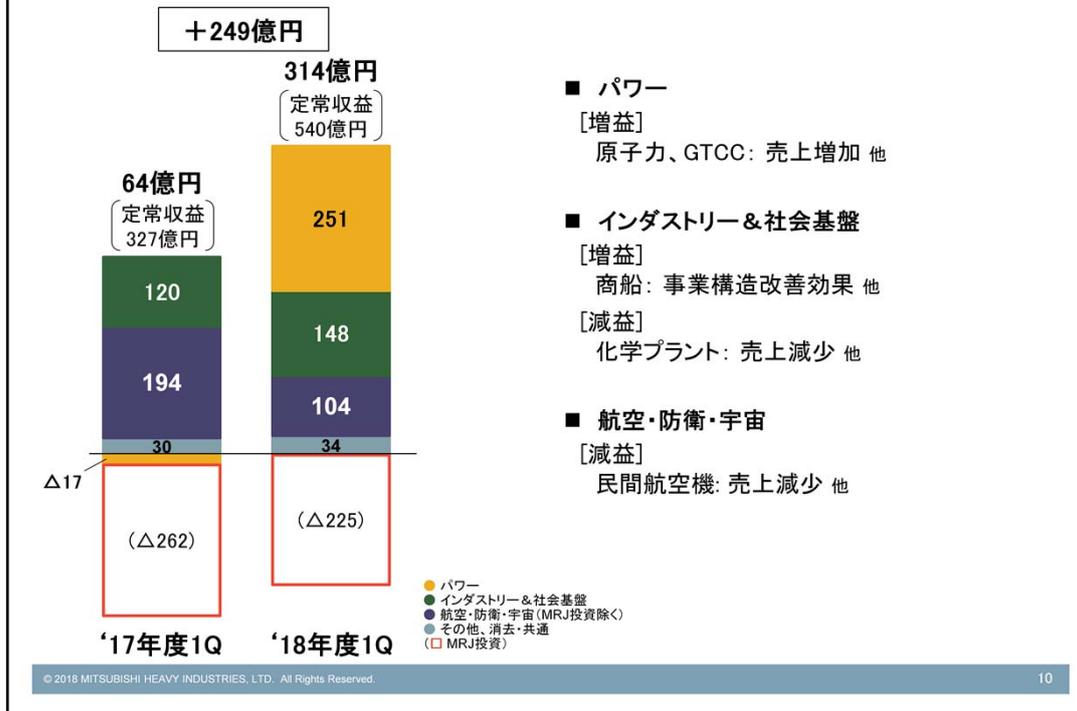
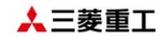
## 第1四半期決算実績 セグメント別 <売上収益>



© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved. 9

売上についてはご覧のとおりです。

第1四半期決算実績 セグメント別 <事業利益>

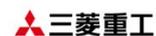


事業利益は、パワーセグメントで前年度低調だった原子力の回復などにより、大きく改善しました。インダストリー&社会基盤セグメントでも増加し、この両セグメントで、航空・防衛・宇宙セグメントの減少をカバーしています。グラフでは、MRJ投資を赤枠で示しています。これを含めた事業利益は314億円、除いた定常収益は540億円です。第1四半期の状況としては良好な数値と考えています。

## Ⅱ. 2018年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。  
従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。  
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。  
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

## 2018年度業績見通し サマリー



(単位:億円)

	2017年度実績		2018年度見通し		対前年度増減	
	(利益率)		(利益率)		(増減率)	
受注高	38,687		41,000		+2,312	(+6.0%)
売上収益	40,856		42,000		+1,143	(+2.8%)
事業利益	(1.4%)	581	(3.8%)	1,600	+1,018	(+175.0%)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	△73		(1.9%) 800		+873	-
R O E	△0.5%		6%		-	
EBITDA	(5.7%)	2,319	(7.6%)	3,200	+880	(+38.0%)
フリーCF	1,675		500		△1,175	-
配当 (株式併合後換算、 1株あたり)	(*) 120円 (中間60円/期末60円)		130円 (中間65円/期末65円)		【未確定外貨】 17億ドル 5億ユーロ	

前回公表値(2018年5月8日)より変更なし

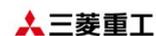
(※) 当社は、2017年10月1日付で株式併合(10株→1株)を実施しました。2017年度の中間配当は1株あたり6円ですが、本資料上は配当予想との比較のため、当該株式併合実施後の配当金に換算して記載しています。

【前提為替レート】  
1ドル = 110円  
1ユーロ = 130円

2018年度の業績見通しについて説明します。

ここまで説明してきました第1四半期の状況を踏まえ、各項目とも期首公表値を据え置いています。

## 2018年度業績見通し 定常収益



(単位: 億円)

2018年度見通し	定常収益 (利益率)	MRJ投資	合計 (利益率)
受注高	41,000	-	41,000
売上収益	42,000	-	42,000
事業利益	(6.0%) 2,500	△900	(3.8%) 1,600
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(4.0%) 1,700	△900	(1.9%) 800
ROE	12%	-	6%
EBITDA	(9.8%) 4,100	△900	(7.6%) 3,200
フリーCF	1,700	△1,200	500

- 定常収益におけるTOP<sup>(※1)</sup>比… 1 : 1.2 : 0.7  
(売上…4.2兆円、総資産…5.1兆円、時価総額…2.8兆円<sup>(※2)</sup>)

(※1) TOP: Triple One Proportion(売上:総資産:時価総額=1:1:1とする経営目標)

(※2) 時価総額は親会社の所有者に帰属する当期利益の16.7倍(資本コスト:6%)として算定

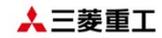
© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

業績見通しについて、MRJ投資を除いた定常収益で見ると、事業利益は2,500億円、事業利益率6%、当期利益は1,700億円、当期利益率4%、ROEは12%、EBITDAは4,100億円、EBITDAマージン9.8%、フリーキャッシュフローは1,700億円となります。

2018事業計画から、事業の健全性を見るKPIとしてTOP(Triple One Proportion)を採用していますが、この定常収益についてTOPの比率を見ると、売上:総資産:時価総額は1:1.2:0.7となります。少々バランスシートが大きく、また時価総額の基礎となる当期利益が少ない状況ではありますが、2018事業計画の最終年度である2020年度に向け、着実に改善を進めていきたいと思っております。

## 2018年度業績見通し セグメント別内訳



(単位:億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減	'17年度 実績	'18年度 見通し	対前年度 増減
パワー	14,375	15,000	+624	14,824	16,000	+1,175	849	1,350	+500
インダストリー& 社会基盤	17,113	19,500	+2,386	18,900	19,000	+99	410	800	+389
航空・防衛・宇宙	7,146	6,500	△ 646	7,183	7,000	△ 183	△ 635	△ 450	+185
その他	1,135	1,000	△ 135	1,207	1,200	△ 7	34	50	+15
消去または共通	△ 1,083	△ 1,000	+83	△ 1,259	△ 1,200	+59	△ 77	△ 150	△ 72
合計	38,687	41,000	+2,312	40,856	42,000	+1,143	581	1,600	+1,018

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

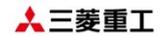
14

業績見通しのセグメント別内訳はご覧のとおりです。こちらも期首公表値から変更ありません。

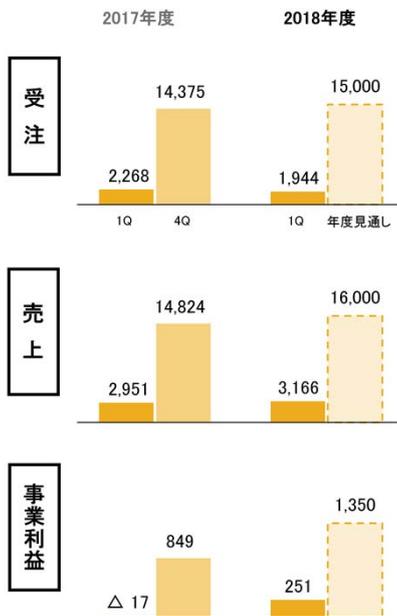
以上で、2018年度第1四半期決算の説明を終わります。

### Ⅲ. 補足資料

# 補足資料① 第1四半期決算実績 <パワー>



(億円、各期の数値は累計)



**受注：対前年同期△324億円の減少**

増加…コンプレッサ、航空エンジン

減少…GTCC<sup>(※)</sup>

(※) GTCC: Gas Turbine Combined Cycle

### 【ガスタービン受注台数】

2017年度1Q：2台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	1	-	1	2
中小型	-	-	-	-	0
合計	0	1	0	1	2

2018年度1Q：2台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	-	-	-	-	0
中小型	-	2	-	-	2
合計	0	2	0	0	2

### 【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
2017年度1Q末	43	14	57
2017年度末	38	6	44
2018年度1Q末	38	8	46

**売上：対前年同期+215億円の増収**

増加…原子力、GTCC、航空エンジン

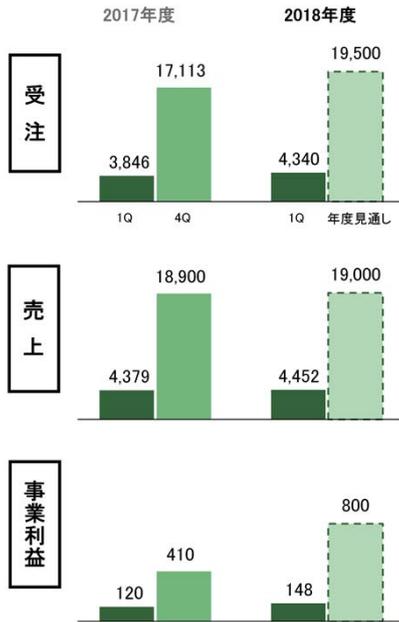
**損益：対前年同期+269億円の増益**

増益…原子力、GTCC:売上増加 他

補足資料① 第1四半期決算実績 <インダストリー & 社会基盤>



(億円、各期の数値は累計)

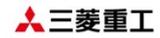


**受注** : 対前年同期+493億円の増加  
 増加…製鉄機械、冷熱  
 減少…化学プラント

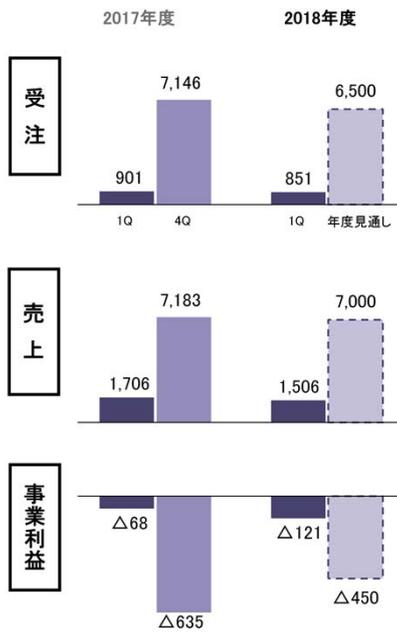
**売上** : 対前年同期+72億円の増収  
 増加…冷熱、ターボチャージャ、物流機器  
 減少…化学プラント、交通システム

**損益** : 対前年同期+28億円の増益  
 増益…商船、事業構造改善効果 他  
 減益…化学プラント、売上減少 他

補足資料① 第1四半期決算実績 <航空・防衛・宇宙>



(億円、各期の数値は累計)



**受注** : 対前年同期△50億円の減少

増加…防衛航空機  
減少…民間航空機

【MRJ 累計受注機数】(2018年8月3日現在)

387機 (確定 213機、オプションおよび購入権 174機)

**売上** : 対前年同期△200億円の減収

減少…民間航空機、飛昇体

【B777/B777X 引渡機数】

'17年度(実績) : 58機 (1Q:17機、2Q:15機、3Q:16機、4Q:10機)

'18年度(見通し) : 50機 (1Q:11機、2~4Q:計39機[予定])

【B787 引渡機数】

'17年度(実績) : 141機 (1Q:36機、2Q:36機、3Q:33機、4Q:36機)

'18年度(見通し) : 148機 (1Q:37機、2Q~4Q:111機[予定])

**損益** : 対前年同期△52億円の減益

減益…民間航空機: 売上減少 他

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'17年度 1Q	'18年度 1Q	'18年度 見通し
研究開発費	307	304	1,800
減価償却費	393	322	1,600
設備投資	298	274	1,600

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'17年度 1Q	'18年度 1Q
販管費	1,320	1,319

3. 為替レート(売上計上平均レート)

	'17年度 1Q	'18年度 1Q
USD(円/USD)	111.9	108.7
EUR(円/EUR)	122.5	129.9

## 4. 海外地域別売上収益

(単位:億円)

	'17年度1Q	'18年度1Q
アジア	1,540 (18%)	1,634 (17%)
北米	1,615 (18%)	1,556 (17%)
欧州	891 (10%)	1,089 (12%)
中南米	395 (4%)	340 (4%)
中東	390 (4%)	329 (4%)
オセアニア	69 (1%)	57 (1%)
アフリカ	203 (2%)	50 (1%)
合計	5,105 (57%)	5,058 (56%)

※ ( )内は構成比

## 5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'17年度1Q	'18年度1Q
日本	売上収益	6,687	6,973
	事業利益	△ 14	220
北米	売上収益	1,175	1,103
	事業利益	26	35
アジア	売上収益	952	1,049
	事業利益	87	78
欧州	売上収益	913	930
	事業利益	△ 30	△ 26
その他	売上収益	248	9
	事業利益	△ 3	6
消去または共通	売上収益	△ 945	△ 1,005
	事業利益	-	-
合計	売上収益	9,032	9,061
	事業利益	64	314

**MOVE THE WORLD FORWARD**

**mitsubishi  
heavy  
industries  
group**

© 2018 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.